

参院選に現れた民意と 今後の日本政治

山口 二郎 法政大学教授

2019年8月25日

小金井を住みよくする会

1 日本政治の大きな危機

① 安倍政治が破壊した戦後政治の枠組み

i 民主主義の柔らかいガードレール

- 相互的寛容 政治家という職業に共通した誇りと敬意

兄弟が十人いれば一人くらいは共産党もいる

田中角栄

- 組織的自制心 党派の論理で触ってはならない部分があるという慎重さ

書かれざるルールの意義

- ルールに対する敬意の必要性
- 明示的に禁止されていないことは何でもやる
安倍政治
＝オルテガの言う子供の支配 「禁止する法律はあるのか？」
- 法秩序、文明の崩壊の危機

ii 尊厳的部分の破壊

- 機能的部分における尊厳的要素
社会の公平や法の安定性を担保する仕組み
- 安倍政権における専門・中立的権威の破壊
- 内閣法制局の蹂躪と憲法解釈の変更
- 政治の下僕と化した日本銀行

iii 戦後民主主義への反乱

- 戦後民主主義の本流の枠組み
実効的部分としての自民党穏健派と官僚
規範擁護者としての野党、進歩的メディア
- アウトサイダーとしての安倍晋三
1960年代から90年代まで周辺化された自民
党右派
1995年からの右派の目覚め

制度改革と権力の集中


- 小選挙区制と自民党内における競争の消滅
- 野党再編の失敗と政党間における競争の消滅
- 内閣制度改革と政治的官僚の出現
- 議院内閣制における立法権と行政権の融合
＝国会の権能は絵に描いた餅

2 日本人は何を考えているのか

① 安倍政治のスタート

- 1990年代前半における自民党のハト派化、リベラル化
- 戦後50年における自社連立による村山談話
- ナショナリズム勢力による右への巻き返しの始まり 歴史問題 女性…
- 反革命としての安倍政治

歴史は繰り返す

- 1960年と2020年
- 60年： 岸による戦後体制の変革の企図
 60年安保という市民革命
- 60年代から2000年代 穏健な自由民主主義
- 2020年：安倍の戦後体制転覆の企図

② 安倍政権を支える社会的基盤

- 古き良き自民党はなぜ崩壊したか
- 戦後民主主義に対する飽きとナショナリズムの復活＋中国、北朝鮮の脅威
- 世界第2位の経済大国からの転落と経済的不安感
- 経済停滞が変えた政治の雰囲気：利益配分の停止と自己責任社会

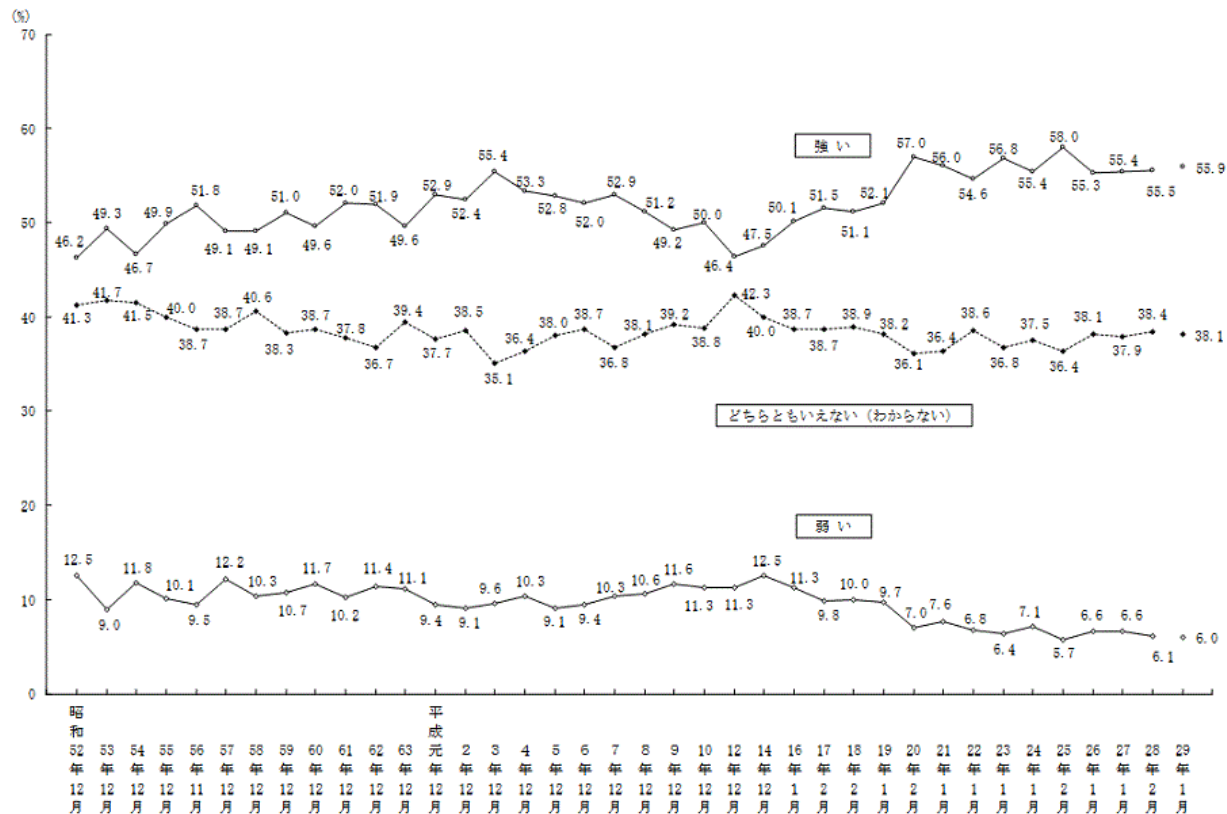
③ 安倍政権を支持する民意

- 民主党政権の失敗と理想の消滅
- 落ち目の日本におけるナショナリズム回帰
- 311の衝撃とほどほどの現実に対する満足
- 安倍政治がもたらした現状肯定ではなく、現状肯定感がもたらした長期政権

愛国の気分

(内閣府社会意識調査2018年)

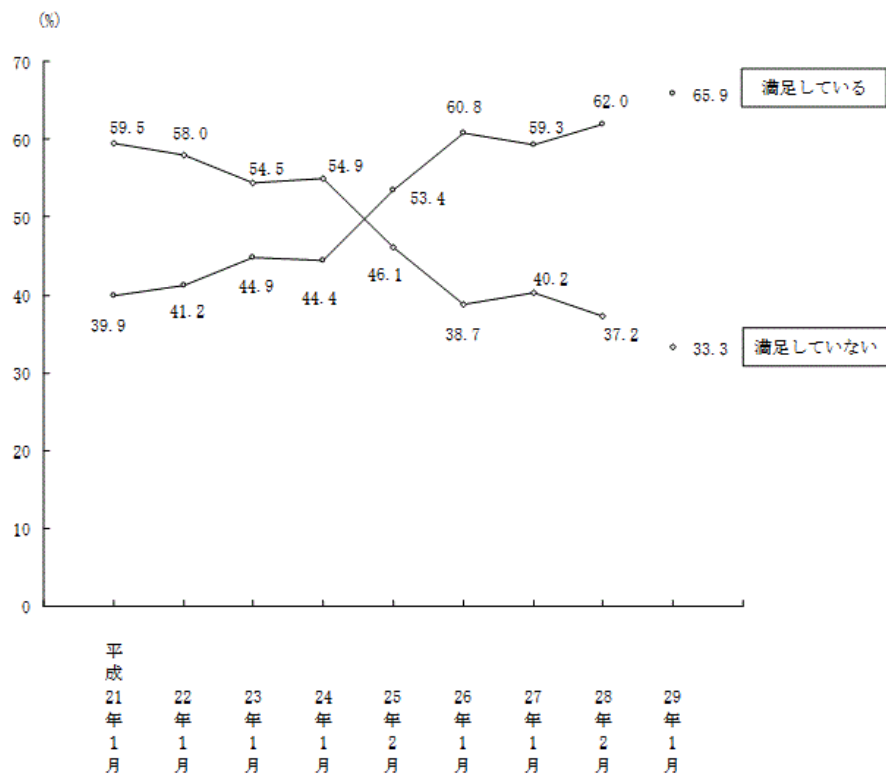
図1-2 国を愛する気持ちの程度(時系列)



(注) 平成28年2月調査までは、20歳以上の者を対象として実施。29年1月調査から18歳以上の者を対象として実施。

社会への満足

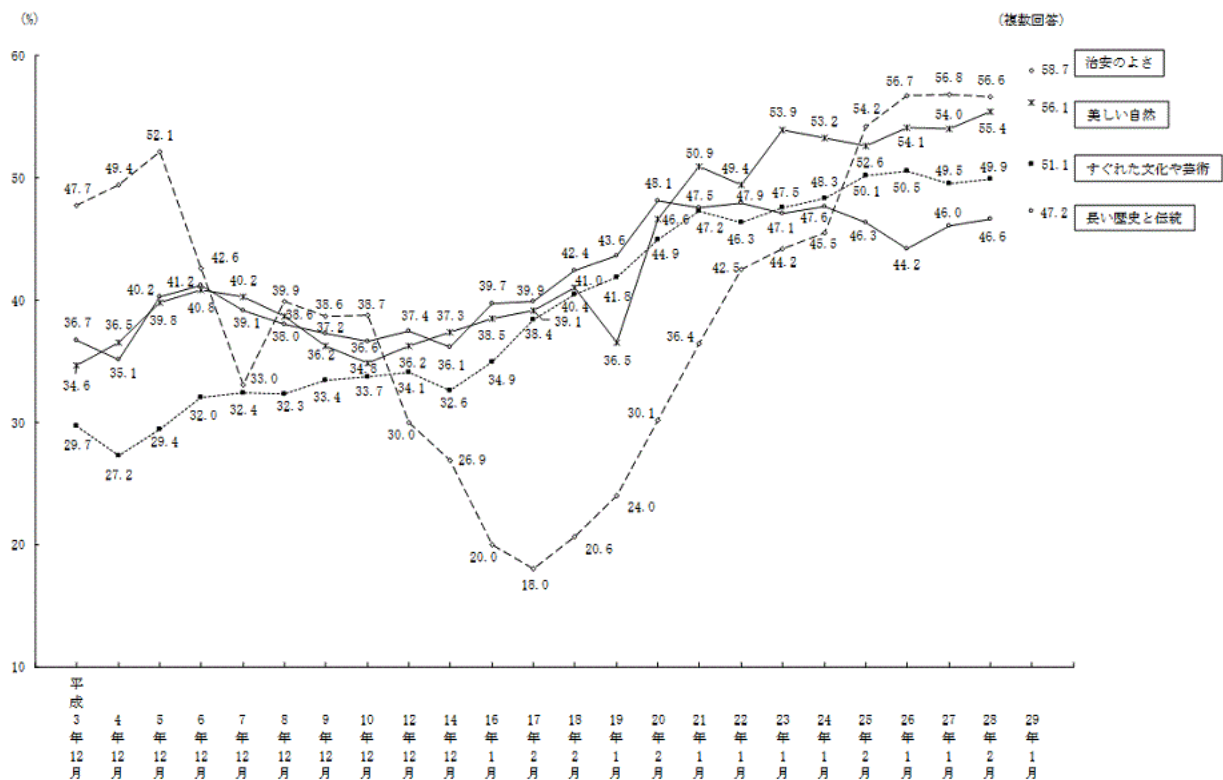
図14-2 社会全体の満足度（時系列）



(注) 平成28年2月調査までは、20歳以上の者を対象として実施。29年1月調査から18歳以上の者を対象として実施。

日本の美点

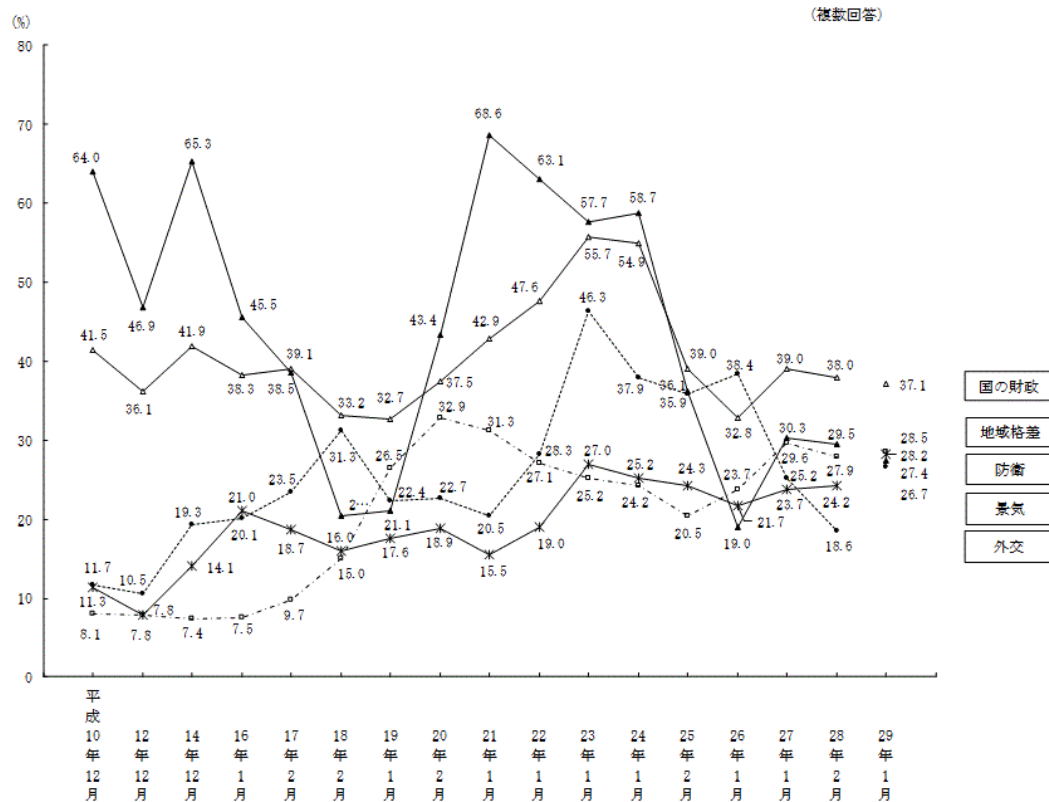
図11-2 日本の誇り（上位4項目、時系列）



(注) 平成28年2月調査までは、20歳以上の者を対象として実施。29年1月調査から18歳以上の者を対象として実施。

危機感の低下

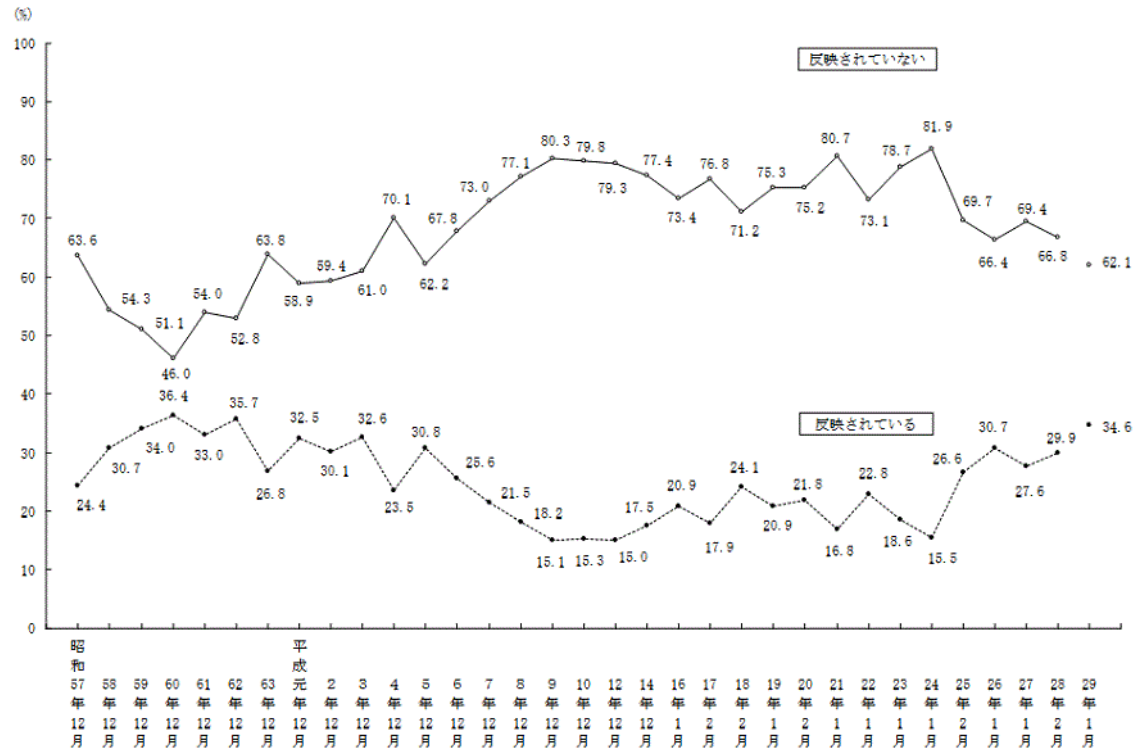
図18-1 悪い方向に向かっている分野（上位5項目、時系列）



(注) 平成28年2月調査までは、20歳以上の者を対象として実施。29年1月調査から18歳以上の者を対象として実施。

民主政治への満足

図15-2 国の政策への民意の反映程度（時系列）



(注) 平成28年2月調査までは、20歳以上の者を対象として実施。29年1月調査から18歳以上の者を対象として実施。

3 参議院選挙を振り返る

① 主な特徴

- 投票率が5割を割り込む
- 自民党の単独過半数割れと改憲勢力の3分の2割れ
- 立憲民主党の実質的敗北
- 左右のポピュリスト勢力の台頭

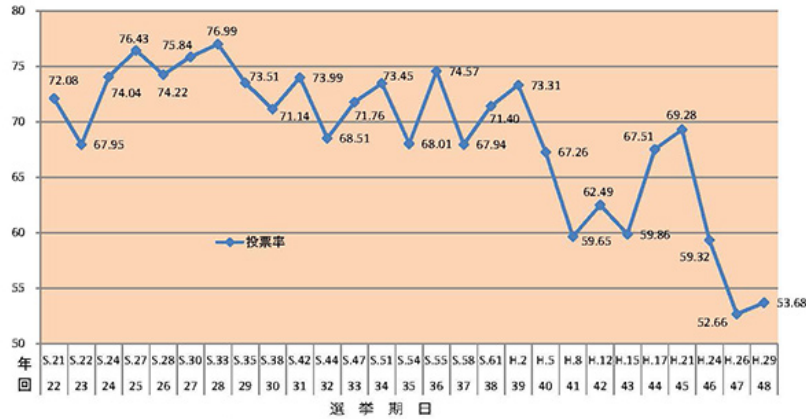
議席数

| 党派別議席数 | 当選者 (女性) | 選挙区 | | | | 比例 | | | | 新勢力 | 公選前 | 改選 | 非改選 | |
|--------|-------------|-----|----|---|----|----|-----|----|---|-----|-----|-----|-----|------|
| | | 計 | 現 | 元 | 新 | 計 | 現 | 元 | 新 | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | (女性) |
| 自民 | 57 (10) | 38 | 33 | - | 5 | 19 | (2) | 15 | 1 | 3 | 113 | 122 | 66 | 56 |
| 立民 | 17 (6) | 9 | 3 | - | 6 | 8 | - | 2 | 1 | 5 | 32 | 24 | 9 | 15 |
| 公明 | 14 (2) | 7 | 4 | - | 3 | 7 | - | 6 | - | 1 | 28 | 25 | 11 | 14 |
| 維新 | 10 (1) | 5 | 3 | - | 2 | 5 | - | 1 | 2 | 2 | 16 | 13 | 7 | 6 |
| 共産 | 7 (3) | 3 | 2 | - | 1 | 4 | - | 4 | - | 0 | 13 | 14 | 8 | 6 |
| 国民 | 6 (1) | 3 | 3 | 0 | 0 | 3 | - | 2 | 0 | 1 | 21 | 20 | 8 | 15 |
| れいわ | 2 (1) | 0 | - | - | 0 | 2 | (2) | 0 | - | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 |
| 社民 | 1 (0) | 0 | - | - | 0 | 1 | - | - | 1 | 0 | 2 | 2 | 1 | 1 |
| N国 | 1 (0) | 0 | - | - | 0 | 1 | - | - | - | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 諸派 | 0 (0) | 0 | - | - | 0 | 0 | (0) | - | - | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 無所属 | 9 (4) | 9 | 1 | 0 | 8 | - | - | - | - | - | 17 | 12 | 4 | 8 |
| 欠員 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 5 | 5 | 0 |
| 計 | 124 (28) | 74 | 49 | 0 | 25 | 50 | (4) | 30 | 5 | 15 | 245 | 242 | 121 | 121 |

② 自民党の「勝因」

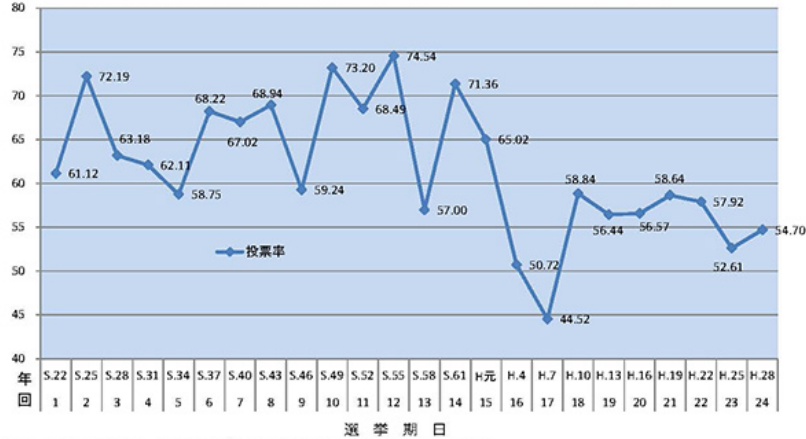
- 選挙に対する関心を盛り上げない
年金も消費増税も争点にしない
＝まあそんなものという諦め
- 棄権を含めた現状維持志向の扇動
- 2010年代のトレンドにサーフィンする安倍政権

% 衆議院議員総選挙（大選挙区・中選挙区・小選挙区）における投票率の推移



- 注1 昭和38年は、投票時間が2時間延長され、午後8時までであった。
 注2 昭和55年及び昭和61年は衆参同日選挙であった。
 注3 平成8年より、小選挙区比例代表並立制が導入された。
 注4 平成12年より、投票時間が2時間延長になり、午後8時までとなった。
 注5 平成17年より、期日前投票制度が導入された。
 注6 平成29年より、選挙権年齢が18歳以上へ引き下げられた。

% 参議院議員通常選挙（地方区・選挙区）における投票率の推移



- 注1 昭和49年は、投票時間が1時間延長され、午後7時までであった。
 注2 昭和55年及び昭和61年は衆参同日選挙であった。
 注3 昭和58年より、拘束名簿式比例代表制が導入された。
 注4 平成10年より、投票時間が2時間延長になり、午後8時までとなった。
 注5 平成13年に、比例代表制が非拘束名簿式に変更された。
 注6 平成16年より、期日前投票制度が導入された。
 注7 平成28年より、選挙権年齢が18歳以上へ引き下げられた。

民意の持続

- 安倍政権に対する不満
- 経済政策の失敗と社会保障への不安
- しかし変化は望まない
- 今より悪くなることが明らかだから、できる限り今にしがみつきたいという感覚

朝日新聞2019年4月調査

- ◆あなたは、今後の安倍首相に、どの程度、期待しますか。
- 大いに期待する 7
- ある程度期待する 34
- あまり期待しない 37
- まったく期待しない 20
- その他・答えない 2

安倍不信の高まり

- ◆あなたは、安倍首相の言葉を、どの程度信頼できますか。
- 大いに信頼できる 3
- ある程度信頼できる 35
- あまり信頼できない 40
- まったく信頼できない 20
- その他・答えない 2

一強政治への反発

- ◆あなたは、国会で自民党だけが強い勢力を持つ状況は、よいことだと思いますか。よくないことだと思いますか。
- よいことだ 13
- よくないことだ 80
- その他・答えない 7

政権交代への幻滅

◆あなたは、これからの日本の政治に、どちらを期待しますか。安定ですか。変化ですか。

- 安定 60
- 変化 34
- その他・答えない 6

◆あなたは、政権交代が今後も繰り返されるほうがよいと思いますか。そうは思いませんか。

- 繰り返されるほうがよい 40
- そうは思わない 53
- その他・答えない 7

③ 野党の敗因

- 選挙前に浮かんだ「悪夢」

国民民主党解体

共産党じり貧 確かな野党路線への復帰

社民党消滅

立憲民主党独り勝ちで総スキャン

枝野路線の誤り

- 枝野の「国民民主党主要打撃論」
- 自民党対野党という二項対立の構図を作れず
- 野党協力の限界＝55年体制時代の社会党との類似 1/3が精一杯

解体過程の国民民主党

- 立ち位置不明と右顧左眊というイメージ
- 改憲論議に参加するという玉木代表の発言は何をもたらすか
- 野党側の戦列整備の必要： 自民に合流したい者を突き放す

一定の成果を上げた野党協力

- 10の1人区で勝利： 事前予測の倍増
- 安倍首相が応援に行けば行くほど、無党派層の票は逃げた 新潟 宮城
- 共産党を含む野党協力が日常の政治風景になったことの意味

結び ここからどこへ行くのか

- 戦後政治体制を変えるのか、守るのか
- 経済と分配のシステムは再建できるのか
- 自由民主主義の枠内での多元的な政党システムは構築できるのか
- 政治の両極化の憂鬱

左派ポピュリズムの可能性

- 山本太郎の躍進の理由
- 見捨てられた人々の怒り
- リベラル派における経済争点（税・社会保障）とアイデンティティ争点（LGBT、フェミニズム）
- 野党は大きな連合を構築できるか

野党再結集の可能性

- 枝野による統一会派拡大の呼びかけ
- 安倍政治に対抗する野党の主軸を明確にする
= 予算委員会に複数の理事を送り込む必要
- 国民民主も結集の道を拒むことはできない
玉木改憲発言がもたらした枝野結集提案

政権を担う選択肢を作るために

- 敵と味方を明確にする：日本経団連や富裕層からは支持を得られなくて当然
- 来年秋までに必ずある衆議院総選挙に備える
- 共産党を含む野党連携への決意を明確にする

政権構想の柱

- アベノミクスがもたらした資源配分の是正
- 全世代にわたる社会保障、とりわけ20代から40代の家族の支援
- 多元的で寛容な社会
- 脱原発と再生可能エネルギーによる新産業

仲間を増やす作法

- 政治活動、運動における方向性感覚の重要性
- 目標地点の遠さが違うのは当たり前
- 方向が同じならば途中まで一緒に行くのが連立政治